



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
代表取締役社長

武田 大二郎



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返ると、長きにわたりこの類のご挨拶を書き続けておりますが、先日も初めてお会いする方に「いつも挨拶楽しみに読んでいます」と言われ、どこに読者がいるかわからない中で(これを読む人など、ごく僅かなのは間違いありませんが)数人でもそのような人がいるのであれば、手を抜かず、その人が期待する私らしい挨拶を書かなければならない、決して生成AIが書くお手本通りの話では許されない…と、勝手にプレッシャーに感じて、ペンを執っております。したがって、いわゆる年頭挨拶の定石・王道である「さて昨年の日本経済は～」とか「DXの推進は～」とか「サイバー攻撃に対する対応は～」と言った話題は誰もが同じことを書くと思いますので割愛させていただきます。

昨年還暦となった私は、ちょっとだけ遠回りをしてこの業界に入り、36年になりました。一貫して「共同とは」を考え、その難しさ、理想と現実のギャップに常に歯痒い思いをしてきた年月でもありました。たった数金庫をまとめることさえ難しく、「なぜ?」と思うことの連続でありました。

しかし、それぞれの金庫に文化と個性がある以上、仕方ないことなのかもしれないと漸く素直に思えるようになってきました。組織の文化も個性も、結局は人が作り上げるものですが、たった全道20の信用金庫でさえ、各々極めて強い個性(特に理事長はじめ役員になられるような方々は)であり、その方々を相手にしていくというのは、私のような性格の人間(つまり、少なくとも柔和ではない)にとって、自分でもよく渡り歩いてきたなと不思議にさえなります。

ただ、それができたのは、言うまでもなく、まず己の立場を真から理解する、当社の業界における立場の弱さを重々理解することと、何より個性の塊ではあっても諸先輩の皆様は私にとって「尊敬に値する人」であったので、いろいろあったにせよ素直に受け入れ良好な関係を築くことができたのであろうと思うのです。

その関係性に、今、世代交代の波が押し寄せ、少し変化している気配を感じています。

所詮、組織の関係性は人と人との関係性。今後は金庫や取引メーカーの役職員の方々も続々と変わっていくわけですが、自分が若手ではなくなってきた今、良好な関係になるには年齢や経験以上に、その人が人として尊敬に値するかどうか全てを決めるポイントといっても過言ではありません。人は皆そうであると思いますが、基準は自分であり、そこからどこまで上下するかです。誰もかがそう思っていると思いますが、人生は「気遣い」。私のような特に好き嫌いのはっきりしている人間は生き難いが、ギリギリのところ言葉選びだけは気を遣ってきたつもりです。

立場が上がるほど、言葉は重く、難しい。言うべきことは言わなければならないが、できるだけ相手を思い、説得力をもって納得させなければならない。時に、ちょっとした表現の違いから、誤解を生むこともある。相手に許容力があればいいが、まともに伝わらない時もある。そんな中で、この人は尊敬に値する、素晴らしいと思えるかどうかは、高齢者でも若者でも性別でもなく、その人の人としての魅力と頭脳でしかありません。特に最近強く感じたことなので、今回一筆書かせていただきました。

今後も誇りを持ってこの仕事を続けていくには、当社にとって唯一のお客様である信用金庫、その信用金庫自体がこれまで同様当社を奮い立たせてくれるぐらいの魅力溢れる(それは全て「人」)組織であり続けてほしいと願うばかりです。当社自体も生き残れるかどうかの線引きは、相手が最後に「HSISのためなら一肌脱ぐか」と思わせるだけの魅力的な会社になれるかどうか、命運を左右するのはそれだけとっております。これからも一人でも多くの信用金庫役職員と信頼関係を構築し、愛するこの業界のために尽力したいとっておりますので、新年も変わらぬご愛顧をよろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 委員長

戸島 隆志（遠軽信用金庫 常務理事）



新年あけましておめでとうございます。

令和8年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、私は昨年10月にHSIS様主催システム検討委員会の委員長を拝命しました。前委員長の山本部長様におかれましては、長きに亘り当委員会の運営にご尽力いただき大変お世話になりましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、「EXPO 2025 大阪・関西万博」が開催され、多くの人に「希望」や「期待」を醸成したことに加え、ユニークなキャラクターを含めて久方ぶりに多くの人々の心がワクワクするイベントとなったほか、海外における日本人メジャーリーガーの活躍などの明るいニュースがあった一方、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の不安定化に加え、「複合危機」とも言える「地政学リスク×気候変動×経済不安×デジタル脅威」への対応が迫られるなど対処すべき脅威を改めて感じる1年でもありました。

私たち信用金庫を取り巻く環境は、デジタル化の進展やサイバーリスクの高度化など、かつてない変革期にあります。地域の暮らしと事業を支えるという本来的使命を揺るぎなく果たすためには、システムの強靱性とデジタル基盤の整備を、単なる技術課題ではなく経営そのものの重要テーマとして捉える必要があると考えております。

サイバー攻撃の巧妙化、サードパーティーを含むサプライチェーンリスクの増大、生成AIの悪用に伴う新たなリスクなど、不確実性は確実に増しています。利便性向上や業務効率化の追求と同時に、誤情報や情報漏洩といったリスクへの備えも不可欠であり、

システム・デジタル領域におけるガバナンスの強化は組織の持続可能性に直結します。

我々信用金庫は地域と共に生きる金融機関として、顔の見える金融サービスときめ細かな支援を提供しています。取引の場が窓口からデジタルチャネルへ広がる現在だからこそ、信用金庫ならではの強みを新しい形で発揮できる好機でもあります。

一方でサードパーティリスクへの対応については、リソースに限りのある中、依存の避けられない分野であるものの、契約前のリスク評価からモニタリング、出口戦略までのライフサイクル管理を適切に行う必要があり、経営層がそのリスクの大きさや想定される影響度を適切に評価、判断するための情報を提供するとともに、優先順位の設定やリソースの確保等の実働を担う役割はシステムを所管する多くの皆様が担うことが求められます。

この変革期において、若い世代の皆さんへの期待はこれまで以上に高まっています。新しい技術や価値観を柔軟に吸収し、地域の声に真摯に耳を傾け、伝統と革新をつなぐ存在として、信用金庫の未来を切り拓く大きな力となっていただきたいと思います。

私は令和4年8月に当委員会の副委員長を拝命し、副委員長としての役割を担うことができていないなか、委員長という大役をお引き受けして良いのか深く思い悩みましたが、諸先輩方の熱い思いに背中を押され、選任をいただき現在に至っております。若輩微力の身ではありますが、道内信用金庫の発展に資することが出来るよう、精いっぱい務めさせていただきます。

結びになりますが、新しい年が道内信用金庫並びに役職員の皆様にとって、輝かしい1年となることを祈念申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 副委員長

加藤 直樹（北門信用金庫 統括調査役）



新年あけましておめでとうございます。令和8年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年も国内外で様々な出来事がありました。能登半島地震や各地の豪雨災害など自然災害の脅威は依然として続いており、地域金融機関にとっては「いかに早く金融インフラを復旧させるか」という使命を改めて認識させられる一年でした。一方で、世界的には地政学リスクや経済の不確実性が高まり、金融市場も大きな変動を経験しました。日本銀行によるマイナス金利政策の解除と利上げは、長らく続いた低金利時代から「金利のある世界」への転換を象徴する出来事であり、信用金庫業界にとっても新たな局面を迎えたと感じております。

こうした環境変化の中で、私たちが直面する最大の課題は「人材不足」と「合理化・効率化」であると考えます。従来から言われてきたコスト削減や事務効率化に加え、今や限られた人員で持続的に業務を遂行するための合理化は避けて通れないテーマです。特にAML・CFT対応やサイバーセキュリティ強化など、専門性の高い業務が増える中で、個々の金庫だけでは十分な体制を整えることが難しい場面も多くあります。こうした課題に対して、信用金庫業界の「共助」の力を活かし、HSISを中心とした共同化・共通化の取り組みを進めることが、今後ますます重要になるでしょう。

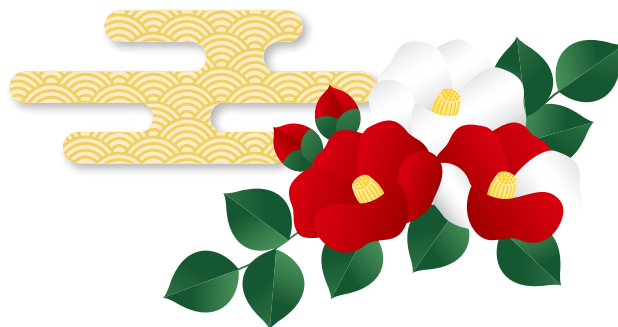
中でも、金融庁より公表された「金融分野におけるサイバーセキュリティに関するガイドライン」への対応は、金庫にとって大きな負担であり、苦慮されていることと思います。サイバー攻撃の脅威は年々高度化し、私たちの業務に直結する課題となっていますが、金庫の皆様が真摯に取り組まれている

姿勢に心から敬意を表します。どうかこの難題に果敢に挑み、地域金融機関としての安全と信頼を守るために頑張ってくださいと願っております。

そして、このような困難な課題に対して日々支援を続けてくださっている北海道しんきん情報サービスの社員の皆様に、改めて深い感謝を申し上げます。制度対応やシステム改修など、目に見えにくい部分での尽力が、私たち信用金庫の業務を支えています。システム検討委員会を通じてそのご努力を間近に感じるたびに、HSISの存在意義の大きさを実感しております。

合理化やDXの推進は目的ではなく手段です。最終的には「地域密着の信頼性」「取引先との親密性」「きめ細かな支援」といった信用金庫の本質的価値を守り抜くことが重要です。人口減少や高齢化が進む中で、地域社会に寄り添い、金融インフラを支える存在であり続けるために、システム検討委員会を通じて知見を持ち寄り、共通課題の解決に向けて取り組んでまいりたいと思います。

結びになりますが、新しい一年が道内信用金庫並びに役職員の皆様にとりまして、希望に満ちた輝かしい年となりますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



「パワーエッグ」のご紹介

グループウェア、汎用申請ワークフロー、Webデータベースの3つの機能を連携し、ペーパーレス化を支援する「パワーエッグ」は、信用金庫業務との相性が良いため、当社での取扱いについて多数のご要望をいただいたことから、今年度よりサービス提供を開始いたしました。

当社では、パワーエッグのアプリケーション、管理者教育、サポートサービスの提供のみならず、ハード(仮想基盤)、バックアップサービスまでを一気通貫で提供することができるためご好評で、既に4金庫よりご発注をいただいております。

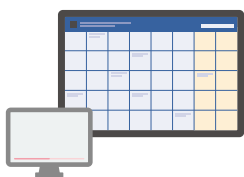
全国では100金融機関以上の導入実績があり、ノウハウや業務テンプレートの提供もごございますので、是非、この機会に本サービスの導入をご検討賜りますようお願い申し上げます。

製品の特長

- **ペーパーレス推進のための機能が充実** …………… 汎用申請ワークフロー・Webデータベース
- **導入目的達成のためのサポート内容が充実** …………… 金融機関の成功ノウハウ、業務テンプレート(約100種類)
- **他システムと連携するための機能が充実** …………… スケジュール、顧客マスタ、承認依頼メッセージ など

主な機能

グループウェア



日々のスケジュール調整や職員との情報共有をもっと便利に、簡単に。

職員全員への情報発信はもちろん、拠点や部署に応じて閲覧制限が可能な掲示板機能、改版履歴を残すことができ、アクセス権限を細かく制御できるファイル管理機能、双方向コミュニケーションが行える社内メール機能など、業務情報をしっかり守りながら、情報共有を効率化できる8つの機能を搭載。

- スケジュール
- 社内メール
- 掲示板
- 電子会議室
- 作業(ToDo)
- 施設予約
- 伝言メモ
- ファイル管理

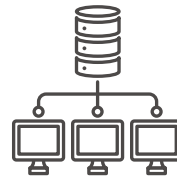
汎用申請ワークフロー



ペーパーレス決裁を実現するための機能をご用意。国産製品なので日本企業特有の複雑・例外的なフローに柔軟に対応できます。規程や組織図に紐づいてルートを設定するため、申請の際は部署・役職に応じた承認ルートを自動生成、組織改編・人事異動の際も世代管理により、運用を止めずスムーズに対応が可能です。

- フォーマット作成
- 各種申請/決裁
- CSV出力
- ファイル管理

Webデータベース



期日管理や報告集計業務などについて、データベース化まで金庫独自の業務に合わせたアプリをノーコードで誰でも簡単に作成できます。1つのデータベースを複数人で編集・管理することで属人化を排除、蓄積された業務データを組織で共有・運用します。

- DB作成
- 登録、更新、削除
- CSV入出力
- 検索

本サービスのお問い合わせにつきましては、業務課(企画・営業推進)までご連絡ください。

☎011-221-2210

発行：株式会社北海道しんきん情報サービス

〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル TEL.011-233-1212(代) FAX.011-261-1811